

# 平成 18 年度 総務文教常任委員会行政視察報告書

平成 18 年 10 月 27 日

- 1、日 程 平成 18 年 7 月 18 日 ~ 7 月 20 日
- 2、視察先等 北海道 斜里町 人口 13,312 人  
" 羅臼町 人口 6,527 人
- 3、視察事項 斜里町 ・町の行財政運営について  
羅臼町 ・特色ある学校教育について
- 4、視 察 者 一行 10 名  
委員 委員長 佐野正三良 副委員長 田沢弘一  
山田義栄 中野元栄 茂岡明與司 安武秀敏  
星野昭吾 今井詔一  
当局 企画財政課長補佐 車谷憲繁  
随行 議会事務局主査 藤田理恵

## 斜里町

### 【町の概要】

斜里町はアイヌ語で「アシの生えている湿地」を意味し「サル、シャル」の音に漢字をあてたものが町名の由来である。北緯 43 度 44 分～44 度 21 分：東経 144 度 22 分。北海道の最北東部、網走支庁官内の東端に位置し、東南に知床連山をもって根室支庁管内羅臼町・標津町に境し、南は清里町、西は小清水町に接している。北はオホーツク海に面し、町域は東西 50km、南北 50km(最深部 18 km) 知床岬へと延びる海岸線は 100 km に及び全体として弓状の三角形である。

知床半島、国立公園内の海岸線は断崖絶壁が連なり、特に幌別川からイダシュベツ川にいたる 10 数 km は、高さ 100～200m の断崖が連続している。

西部には斜里平野が広がり、斜里川、幾品川、秋の川、奥薬別川、海別川が流れ、斜里川河口域に斜里市街地が形成されている。面積 736.98 k m<sup>2</sup>、議員数 20 名、職員数 238 名、平成 18 年度予算額 89 億 6 千万円、観光客 1,732 千人(宿泊 608 千人・日帰り 1,124 千人)、農業(990 人・馬鈴薯・甜菜・小麦等)、漁業(362 人・鮭・鱒・きちじ・ホッケ等)、工業(448 人)、商業(1,055 人)

### 【行財政改革の概要】

斜里町では厳しい財政状況について、数年前から町民説明会を開催し『斜里町の財政見通しと行財政改革について』のパンフレットを配布し説明している。

以下、主だった内容については次の通りである。

1 . 斜里町の財政の現状は・・・

( 1 ) 行政サービスはすべて予算から ( ~ )

( 2 ) これまで 10 年間の斜里町の財政のすがた ( ~ )

収入に占める割合の大きい町税と地方交付税の推移

- ・ 町税は 15～17 億円台で、比較的安定した財源であるが、収入全体に占める割合は 15～18%にとどまっている。
- ・ 地方交付税は、平成 11 年度の 45 億 5 千万円をピークに、17 年度では 33 億円台に削減され、実に 6 年間で約 12 億円の減額となった。
- ・ さらに、今後も減額される見込みであるが、収入全体の割合は約 40%と大きな財源要素となっている。

支出に占める割合の高い、人件費と物件費の推移

- ・ 人件費は、平成 11 年度の 22 億円から、17 年度で 16 億円台に大幅に圧縮した。これは、行財政改革方針による職員数の減や、給与費の削減等によるものである。物件費についても、12 億円から 10 億円前後に推移した。

( 3 ) 町の借金と預貯金の状況 ( ~ )

2 . これからのまちの財政のすがたは・・・

( 1 ) 国が考えているこれからの地方財政 ( ~ )

( 2 ) 斜里町としての今後の財政運営について ( ~ )

( 3 ) 財政シュミレーション (平成 18 年度～平成 25 年度)

3 . 行政改革はどこまで進んだか・・・

( 1 ) これまでの行政改革は ( ~ )

( 2 ) 行政改革の現状と今後について ( ~ )

第 3 次行政改革及び行財政の構造改革 ( H 13 年度～ H 20 年度 8 年間 )

小さな行政

住民と行政との協働

公平な負担

これからの行財政改革 ( 国・地方が一丸となって・・・ )

事務・事業の再編・整理、廃止・統合

民間委託の推進

定員管理の適正化

給与の適正化 等

【所見】

地方交付税の削減により、交付税への依存度の高い地方自治体ほど行財政環境が厳しい状況である。その中で明確な目標と計画性のもと、住民に説明しながらの行政運営の取組と姿勢はたいへん参考に値するものであった。

## 羅臼町

### 【町の概要】

町名の羅臼は、アイヌ語の「ラウシ」( 獣や魚の骨のたくさんあるところの意 ) に由来し、「ラウシ」が「ラウス」に転訛して名づけられたといわれている。

羅臼町は、北海道の東南端「知床半島」の東側に位置し、南は植別川を境に「標津町」に接し、東に国後島を望み、西北一体は標高 1,661m の羅臼岳を最高峰とする知床連山を境に「斜里町」と接している。町の総面積は、397.82 k m<sup>2</sup>で、南北に 64km、東西に約 8km と細長い地形で、町域の約 95% が森林で占められている。町の中心部から車で 1 時間程度 ( 約 70km ) の距離にある「中標津空港」には、札幌新千歳空港、丘珠空港、東京羽田空港との直行便が発着している。

漁業が基幹産業であり助宗だら、鮭、昆布、ウニなど年間を通して操業している。就業人口者比率・1 次 ( 1,729 人・43.2% ) 2 次 ( 778 人・19.4% ) 3 次 ( 1,401 人・37.3% )、平成 18 年度予算額 41 億 4 千万円、地方交付税 39.3%、議員数 16 名、また、知床の四季をとおした原始の姿は日本最後の秘境として昭和 39 年に国定公園に指定、平成 17 年 7 月には「流水が育む豊かな海洋生態系と原始性の高い陸域生態系の相互関係、世界的希少種の重要な生息地を有すること」等が評価され世界自然遺産に登録されている。

### 【知床・世界自然遺産登録について】

昭和 39 年知床国定公園指定。平成 6 年指定 30 周年を契機に斜里町と登録に向けた検討を開始。平成 15 年「知床」が暫定リストに選定。平成 16 年 1 月候補地決定。平成 17 年 7 月南アフリカ共和国のダーバン市で開催された世界遺産委員会で、「知床」が世界遺産リストへの登録が正式に決定になる。(H17.7.17)

### 【特色ある学校教育について】

#### 1. 観光関係

地元中学生による「観光パンフレット」作り

羅臼中学校では、総合学習の一環として観光パンフレット作りを行っている (今年で 5 年目)。1 年生は、相泊温泉やヒカリゴケなどの町内の観光地。2 年生は、知床自然センターを見学。3 年生は、羅臼市場で魚のセリを見学し、羅臼の食材を使った料理を試食。

パンフレットは、数人ごとのグループに分かれて作った後、生徒全員で審査。各学年の優秀作品 1 点ずつをまとめて一つにし、9 月 16 日の「らうす漁火祭り」で観光客に配布する。生徒にとって自分の町を知る大事な機会になるものと。

## 2. 自然環境

ふるさと少年探検隊

期間 : H18年7月28日～8月2日(5泊6日)

探検場所: 世界自然遺産登録地「知床半島岬方面」

2006 ふるさと体験教室

期間 : H18年5月27日～H19年2月24日

クジラウォッチング・知床岬清掃・稚魚放流活動・サケ、マス学習  
郷土料理実習・もちつき交流会・オジロワシ、オオワシ観察会 等  
ヒグマ・エゾシカに関する授業

平成18年度から、野生生物との共存のために、ヒグマやエゾシカ遭遇時の対処法などを伝える講座を計画。主催は、(財)知床財団で、平成17年度は、斜里町ウトロ地区の小中学校で授業を実施。

羅臼町では、学校付近や通学路でのヒグマの出没も多く、特にヒグマやエゾシカという危険回避を学ぶべき生物について、小中学生への情報提供は必要不可欠。

## 3. 北方領土関係

北方領土に関する「歴史・返還運動の後継者」語り部育成事業

北方四島交流事業

北方四島ビザなし訪問事業

北方少年交流事業

「北方領土の日」根室管内住民大会で弁論発表

2月7日は北方領土の日。

毎年、根室市において「北方領土の日」根室管内住民大会が開催され、根室管内の中学生による北方領土問題に関する弁論発表がある。(羅臼から2名発表)

## 4. 中高一貫教育

これまでの中学校3年間、高等学校3年間に加えて、生徒や保護者が「中学校と高等学校を接続した中高一貫教育6年間」も選択できるようにすることで、中等教育の一層の多様化を推進するもの。

なお、中高一貫教育には3種類(連携型の中学校と高校、中等教育学校、併設型の中学校と高校)ある。

本年、6月北海道教育委員会から協議があり、羅臼町として、の連携型で同意する旨回答。平成19年度から実施に。

### 【所見】

ふるさとを学び愛する心と、自然との共生を育む学校教育がたいへんすばらしく印象的であった。また少子化への中高一貫教育は今後、時の流れになるう。